

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	1	気象法令	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	中西 秀夫	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経験歴]			
<p>民間の気象会社で予報業務を23年担当。 企業向けの防災セミナーを担当。</p>			
単位数 (授業の回数)	時間数☒	配当時期	必修・選択
2 単位 (30 回)	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
予報業務を行うにあたっての法律や条例を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
<p>①気象業務法 ②水防法 ③消防法 ④災害対策基本法</p>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
予報業務を行うために順守する法令を覚える			
[準備学習の具体的な内容]			
毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び評価の基準]	
使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)		定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。	
参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。		評価基準 定期試験80%、平常点(出席、講義の参加度)20%とする。	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	気象業務法①		
2回	気象業務法②		
3回	気象業務法③		
4回	気象業務法④		
5回	気象業務法⑤		

6回	気象業務法⑥
7回	気象業務法⑦
8回	まとめと振り返り
9回	気象業務法施行規則①
10回	気象業務法施行規則②
11回	気象業務法施行規則③
12回	気象業務法施行令①
13回	気象業務法施行令②
14回	気象業務法施行令③
15回	まとめと振り返り
16回	水防法①
17回	水防法②
18回	水防法③
19回	消防法①
20回	消防法②
21回	消防法③
22回	まとめと振り返り
23回	災害対策基本法①
24回	災害対策基本法②
25回	災害対策基本法③
26回	災害対策基本法④
27回	災害対策基本法⑤
28回	災害対策基本法⑥
29回	災害対策基本法⑦
30回	まとめと振り返り